

地方自治体への活用事例

内閣府 SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) 採択事業



- 今回開発された情報処理技術は、高速道路だけでなく国道や県道など一般道への適用も可能な仕様となっており、他の道路管理者での活用も可能。
- 既に、山形県の橋梁データベースにも実装され、その技術を活用。
- 広く社会を取り巻く環境・課題解決に貢献します。

※画面は、山形県道路橋梁メンテナンス統合データベースシステム(DBMY)



SIP成果を活用した山形県のデータベース開発

DBMY

SIP研究開発テーマ

高度なインフラ・マネジメントを実現する多種多様なデータの処理・蓄積・解析・応用技術の開発

研究責任者：
東日本高速道路(株) 上田 功

自治体向け
インフラDBを開発

SIP (Cross-ministerial Strategic Innovation Promotion Program
・戦略的イノベーション創造プログラム)とは

内閣府総合科学技術・イノベーション会議が司令塔機能を発揮して、府省の枠や旧来の分野を超えたマネジメントにより、科学技術イノベーション実現のために創設した国家プロジェクト。課題の一つに、「インフラ維持管理・更新・マネジメント技術」がある。(内閣府ホームページより)

ニーズを
情報提供

SIP成果「自治体向けインフラDB」を改良した、
山形県向けのデータベースシステム(DBMY)の共同開発・運営

成果を
提供

東北大学
IMC

山形県

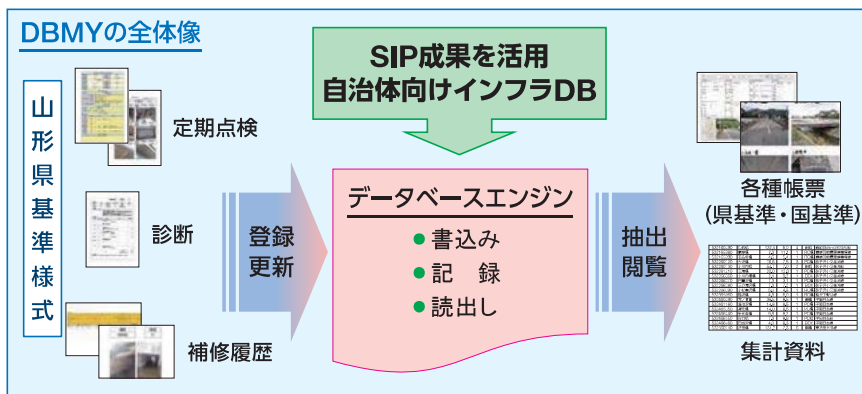
山形県
建設技術センター

サービスの
提供

県内
全35市町村

SIP成果活用のメリット

※DBMYは、SIP成果「自治体向けインフラDB」を山形県用に改良する開発手法を採用



- 産学官連携による高い技術力
- 山形県の状況への適合性を両立した **高品質で使いやすい** データベースシステム

短期間で・経済的に導入実現

※市町村にも安価にサービスを提供

※資料は、山形県県土整備部より提供